

◇ グループ活動

グループごとにフィールドワークを中心に活動しました。

★植物グループ × 動物グループ

植物グループと動物グループは共同で、シェルター構造上部の植生管理と植生回復のための種子採取をしました。

植生管理～モデル区域～ ★1



植生管理前



モデル区域

平成17年11月に植生回復を行った場所で5m×5mの植生管理のモデル区域を設置し、植生状況を調査しました

※ 今回の区域をモデルとして今後の植生管理を進めていきます。



植生管理後

伐採した樹木は、今後の簡易ダムづくりに使用します。



植生管理

適切な樹林を形成するために整理するものを選定し、伐採しました

種子採取



今後の植生回復に使用するため、アカメガシワやミツバツツジの種子を採取しました



★話し合い

各グループでCOP10にあわせて作成するパンフレットの内容について話し合いをしました。

生物多様性と私たちの活動の意味について、あらためて考えるよい機会になりました。



○インスペクターからのコメント（63回）

散策路沿いや道路沿いに虫の影響で弱った木もありますので、早めに、適度に切って再生を促す方法が良いと思います。今日は、竹組で簡易ダムを作りましたが、道路問題を考えながらも楽しんで活動出来るのが施工ワーキングのいいところですね。次回も笑顔で会いましょう。



岡村
インスペクター

今、工事は進んでいませんが、自然はどんどん進んでいるんですね。今日も木を切って手入れしましたが、そこでやりっ放しではいけません。作業を続け、見守り続けることが施工ワーキングの任務です。今後は、他の人にも呼びかけ、参加してもらおうということも考えていきたいですね。



大竹
インスペクター

周辺道路の渋滞対策や生活環境の改善を目指すことで、結果的に地球環境に貢献することがこの道路の重要な役割だと思います。道路を作ることに伴う自然環境への影響を予測して、地域環境を守るために様々な対策に取り組むことが、私たちの施工ワーキングの活動だと言えますね。



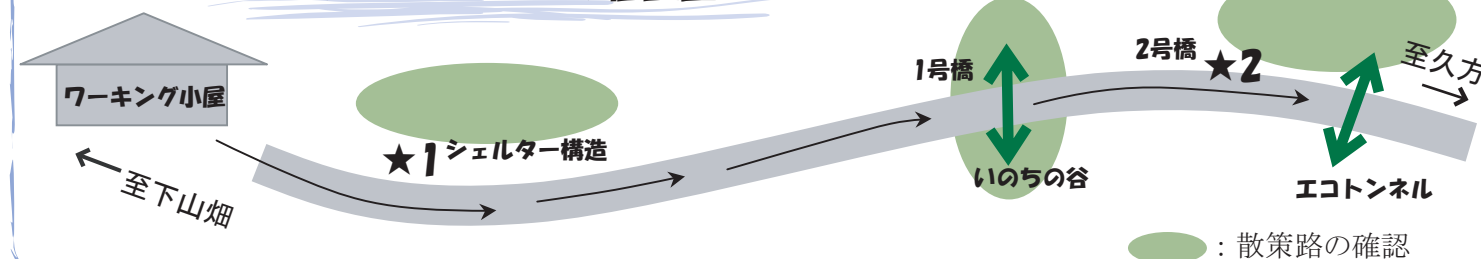
藤田
インスペクター

自然は生きていて自然の力で強く育っていくこと、私達は、それを信じてこの森の形を作ってきました。市民が参加し、みんなで考える場、意見を出し合いながらすすめていくという仕組みが出来ました。今後も、興味のある人には、一緒に携わってもらい、現場で考えていくこの活動をすすめていきたいと思っています。



長谷川
インスペクター

★フィールドワーク位置図



★交通グループ

弥富相生山線の交通課題について話し合い、早急に対応の必要な課題として、散策路の確認をしました。

散策路の確認

散策路のうち、課題となっている以下の箇所を実際に歩きました。

- ・ シェルター構造西側から散策路への導入部
- ・ いのちの谷の水みちにできた散策路
- ・ 久方側からの道際の散策路



道際と接近したところに散策路ができ、植生回復が難しくなっています



いのちの谷が散策路化し、水みちが固められています

必要な箇所は保全して、影響の少ない散策路へ誘導する対策を検討していきます。

いのちの谷付近は、橋梁部として「みずみちを確保」し、「小動物の通り道」として配慮した重要な場所です。

